

かんぶん ねんみだこうしんとう 寛文9年弥陀庚申塔

昭和46年3月16日 八潮市指定有形文化財（建造物）

●八潮市大字南川崎 870 番地（専稱寺）

専稱寺境内の弥陀庚申塔は、高さ 2.28 メートルの石造仏で、寛文9年（1669）に造塔された。

庚申信仰は、平安時代に中国から伝わった道教の教えである。それは人体に寄生する3匹の虫（三尸の虫）が、庚申の夜（60日ごと）に人々が寝ている間に天に昇り、天帝にその人の罪を告げるといふもので、罪を告げられると、その人の寿命がなくなるとされた。そこで、その夜は経を読み、会食し、寝ずに語り明かすという信仰行事となった。人々は無事にすんだあかしとして庚申塔を造った。

一般に庚申塔は青面金剛などをかたどったものが多い。しかし、専稱寺の庚申塔は定形化する前の阿弥陀仏を本願とする庚申塔である。台座には三匹の猿が彫られ、これを造塔した村人12人の結衆名が刻まれている。等身大の完全な一石彫りの庚申塔は極めてめずらしいものである。



◎公開の有無：常時公開

◎その他の文化財：円空作木造愛染明王座像（非公開）
木造聖観音菩薩立像（非公開）

◎交通案内

- ・八潮駅南口からバス（草加駅東口行または上二丁目行）
「南川崎」下車徒歩2分



本図は電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成したものです。